

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 15 号 (8 月 20 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

モンテユースBにも辛勝

8 月 4 日 (日) Y 2 A リーグ第十一節のモンテユース B (以下モンテ B) 戦が県総合運動場 (べにばなスポーツパーク) 第二運動広場 (人工芝) にて行われました。7 月 20 日の日大 B 戦では、エイジのハットトリックにより 3 対 2 で劇的逆転勝利を収めたものの、運に恵まれたところもあり、実力差がスコアの差になったとは言い難い。本節の相手はモンテユース B。前回の対決では、大一番との位置づけから 3 年生チームが必勝を期して試合に臨み、リクの先制から試合を有利に進めたものの、結局逆転を許し 2 対 3 で敗れている。目標の一つにしていた前期リーグ優勝が遠のいた印象深い一戦でした。さて、二回目の対戦。Y リーグは二回総当たりになっており、前回の対戦を受けて one more chance が与えられている。モンテ B はプリンスリーグ東北の出場メンバーの関係で、一回目に出場した数名の選手 (リク弟ルイ含め) が出場できず、戦力ダウンは否めないか。対する山東は、7 月 31 日～8 月 2 日月山フィジカル合宿、8 月 3 日山東サッカーフェスティバル (OB 戦) があり、8 月 3 日は少し抑え目にして調整したものの、8 月 4 日の段階で選手の疲労はかなり蓄積している模様。筋トレによる腿裏 (ハムストリングス) やケツ筋 (大臀筋) の筋肉痛が治っていない選手が半数ほどいる状況。「そんなことなら月山でもう少し緩くやるんだったか～」と 4 日朝集合時に後悔したものの、**フィジカルとメンタルを追い込んでこそ夏合宿**であり、痛し痒し。まあ、「**サッカー選手は疲れてからやれてナンボ、疲れてなかったらできます**」という言い訳は通じない」というメッセージは選手に常々伝えており、まさにモンテ B 戦、言い訳のできない戦いが始まる。

試合が開始されると、予想していたことですがモンテ B のパスワークが光る。右サイドが詰まったら左、左と思わせて右、と山東のプレスをヒラリヒラリ交わす。ただ、モンテ Jr. Youth 村山出身で一年生ながら山東の守備の中心の**CDF タツル**が、元チームメートのプレーを読んでいるのか、元チームメートに仕事はさせないと発奮しているのか、対人プレーで勝ち続け、またパスの狙いどころも冷静に読み、モンテ B に決定機を作らせない。【しっかり守ってカウンター】の山東の流れともいえるが、その肝心の**カウンターは関わりの薄さが響いて、個々人の突破力頼み**。その突破力も破壊的ではないため、あっさりモンテ守備陣の術中にはまること多し。前半通じてモンテ優勢。

しかし後半は少しずつ山東に流れが。この新人チーム、スロースターターなのか、体力があるのか、しっかり耐えて隙を突くのが上手いのか、よくわかりませんが、ここ数試合を見るに、**後半の方が内容が良い**。モンテ B はキレイにサッカーしてくるので攻撃が読みやす

い印象あり¹。もっとガツガツと個で前方にボールを運んだり、アバウトなルーズボールへの反応を全体的に早くそしてしつこくすれば、山東としては苦しいのだが、最終的に淡泊なため「助かった」と感じるシーンが多い。いや、そのように野性的に迫らずとも、相手をよく観て狙いを外すいやらしいプレーができれば、正確なパス精度をほこるモンテ選手の攻撃に対して、山東はなされるがままになるはずなのだが²。ともかく、**スキルの差がかなりありながら、後半は山東の時間を徐々に作る事ができている**。そんな一進一退の中、ここ数試合、後半途中にスーパーサブとして起用され、この試合でも後半途中から出場した**レスラーことシュウタロウ**が、大きな仕事をしました！ **左MFカッツ**の正確なクロスボールをDFライン裏で受けたレスラーが何と、ピタリと足元に収まるトラップをしたのです！！あまり見ない光景なだけにビックリしていると、すぐさま右アウトサイドキック？にて、飛び出して至近距離に迫っているGKをあざ笑うシュートを放ち、ボールは転々とモンテゴール内に。**素晴らしい、素晴らしいトラップとシュート**。前節エイジが得点を上げた時も「さすが」という反応ではなく「あいつやらかした」という望外の喜びでベンチが沸きましたが、今節も全く同じ。**幸運と言ったら本人たちに怒られそうですが、「予定通り」とは決して言えない。それだけに、喜びも一入**。その後、一年生**CMFムンタリことリョウタ**が一度転びながら立ち上がりそのままドリブルし相手DFをスピードでぶち抜いてシュートを放つ好プレーを見せるなど、押せ押せムード。ただし、好事魔多しという格言があるだけに、慎重にプレーしたい山東ではありましたが、最終盤に軽い対応が連続してヒヤッとさせるシーンを作られるなど、アディショナルタイムの時間が過ぎるのがとても遅く感じられる。しかし、ネットを揺らされないまま審判の笛を聞き、1対0の勝利。

無失点がうれしいし、各節ごとにヒーローが出る好循環を感じる試合でした。そして何より、選手が一体となり、悪い時間も焦れずに粘りながらチャンスを作り出しモノにする山東らしいサッカーができたことがうれしく感じられました。**【スキルの差をスコアの差にしない粘り強いサッカー】**が山東の伝統と常々感じているだけに、その大切にしたい伝統の継承を感じることができた試合となりました。暑い中でしたが、応援ありがとうございました。次節も応援よろしくをお願いします。

8月24日(土) Y2A第12節 長井工業戦 @白鷹町東洋の里G 9:30~

¹ アニメ『機動戦士ガンダム』にて、グフに搭乗するランバ・ラルが、ガンダムに搭乗する主人公アムロ・レイの射撃を受けながら、「正確な射撃だ。しかし、それゆえに読みやすい。」とつぶやくシーンが出てきますが、そんな感じ（わかる人だけわかって下さい）。

² 念のため言うと、一連の記述はモンテBへの批判ではありません。いやそれ以上に、モンテBを含む、技術に対して判断力が追いつかない日本サッカーの傾向全体への批判です。中盤や後方のプレッシャーの薄いところではキレイにパスをつないでサッカーをすることができるが、相手ゴールに近いハイプレッシャーの場所では上手くサッカーができないのは、そのためと感じています。駆け引きできない、と言い換えてもいいです。ちなみに山東は技術すらないので（正確に「止める、蹴る」ができないので）、その前段階にあるのですが。

充実の夏を終えて

上記記事にありますように、この夏休み、まず7月31日～8月2日にかけて恒例となりつつある月山合宿からスタート。**数えたら今年で5回目**になる(3年次県総体で準優勝したコースケの代から始まり、タダの代、ショータの代、ヨシタカの代と続き、今年で5回目)。山東サッカー部は30年以上前までは学校にて夏合宿を行っていたそうですが、その学校での夏合宿にて部員の丸子さんが熱中症でお亡くなりになる痛ましい出来事³が起こってしまい、それ以降、わずかばかりの涼を求めて高地の蔵王で夏合宿をして参りました。しかし、26、7年間ほどお世話になり続けた蔵王の旅館が、6年前に火事で焼けてしまい、旅館を廃業することになりまして、それ以降月山志津温泉のみに滞在し、弓張平でトレーニングしております⁴。「**月山の宿 かしわや**」さんに今年もお世話になり、おいしい食事で栄養を摂り、運動して体をつくる。今年弓張平のサッカー場/陸上競技場が工事のため使用できませんでしたが、サッカーのスキルを高めるというより**フィジカルトレーニングで体と心を追い込むこと(理不尽なことになれること)が夏合宿の目的⁵**なだけに、サッカーしづらい環境もなんのその。というか、今年は「雨に祟られた」ことが幸いして、非常に涼しい中、例年以上にトレーニングに集中することができました。最終日はこれまた恒例の月山登山。**112号線から姥沢駐車場まで、21人の部員全員が完走しました!** 体力だけでなく、気持ちの強さも問われるこの月山走破、部員全員が完走したことを喜びたいと思います。そうした中**60分を切った者が2人、65分を切った者がその2人を含む8名と、まずまずの成績**だったのではないのでしょうか。ちなみに、1位はキャプテンの意地でしょうか、**コウタ**で、わずかの差で**クリロン**が2位でした。**この月山合宿に際して、保護者会から激励金と、きゅうりの一本づけやチーズなどの差し入れを頂戴しました。また、OB会よりスイカの差し入れを頂戴しました。ありがとうございました。**

8月3日には山東サッカーフェスティバル(OB戦)⁶があり、現役とともに、秋保前O

³ その出来事後、丸子さんのご遺族により、部旗とテントを寄贈して頂きました。8月4日にOBに涼をもたらしたテントの一つは、頂いたテントになります。

⁴ コースケの代は蔵王合宿と月山合宿のどちらもしましたが、タダの代から、上記理由により、月山のみになりました。コースケの代の一つ上のキジマの代までは、合宿は蔵王のみです(キジマの代では苗場に初参加しましたが)。

⁵ 理不尽なことになれる、ということに関して、去年の部報(12号)で簡潔に説明しておりますので、引用いたします。「山形の高校サッカー界を長年牽引したある指導者が『サッカーという競技そのものが理不尽なことだらけ』と仰っておられました。まさに至言。理詰め(理論・計算・合理性)ですべてを割り切れない世界だからこそ、理に外れたこと(理不尽なこと)への耐性を築くことがより広い意味での合理的な行動(サッカーという競技にマッチした行動)につながるのです。」そして、その記載への注として以下のように述べました。「ですから私は、科学的なトレーニングの薄っぺらさに敏感な、根性論者です。卑近な話ですが、映画『ロッキー4』で、科学的なトレーニングを積んだイワン・ドラゴを、伝統的で素朴なトレーニングにて打ち破るロッキー・バルボアに、トレーニングの一つの真実を見出しています。」

⁶ われわれの頃はナイターサッカーと呼んでいました。今年正浩先生や佐竹校長などの元顧問(今野の恩師)が駆けつけてくださるとともに、サウジアラビア大使館から41回卒の先輩(もちろん現役諸君の先輩であるとともに43回卒の今野の先輩)も、わざわざこのOB戦のために帰省時期を合わせて駆けつけてくださいました。ありがとうございました。

B会幹事長や丹野PTA会長から引退したての高3や大学1年生⁷まで幅広い層がプレーし、サッカーを楽しみました。そして、**当然プレー後は、中庭（正式名称洋風庭園）にて、缶を片手に七日町「佐門」さんの煮込みを頼張る。**今年逝去された武田前OB会長の肝いりで始められたこの（プレー後にみんなで煮込みを食べる）企画、当然今年も皆で楽しみました。例年より発泡スチロール製のお椀が小さかったため、人数はいるのに煮込みが残り、会の終了後、62回卒のゴ〇（注7とは別人物）等が「悪い先輩」の指図により寸胴ごと飲む？芸を披露し、楽しみました。

8月6日～9日までは恒例の苗場グリーンカップ。他と隔絶された大自然に囲まれ、宿舎とサッカー場の間の移動（もちろんランニングでの移動）もトレーニングとなる素晴らしい環境。今年は現役選手が21名と2チーム組めないことから、OBにこそっと頼み、何とか2チーム参加してきました。参加してくれたOBは4名で、いずれもコースケの代（大学3年生の代）。**6日宿泊はタクミ、カツラギ、7日宿泊はタクミ、カツラギ、ナオヒロ、ケンスケ、8日宿泊はタクミ、ナオヒロで、OB合計で8泊。プレーで貢献してくれただけでなく、指導もして下さいました。本当にありがとうございました。**さて、試合内容はといえば、Aは予選リーグ、そこそこ結果に恵まれ、リーグを1位で突破したものの、内容のない戦いで勝ったり、最終的にリーグ4位のチームに競り負けたりと、強さとはほど遠い内容。決勝リーグでも、埼玉のチームの一年生にボコボコにやられるなど、よく戦ったとはいえない。しかし！ **しかれども苗場！ チームの課題だったポイントが的確に炙り出され、その課題克服の必要性に気づかされるから、また来たくなる。**コミュニケーションやプレーでの関わりの薄さがミーティングでの反省点となり、最終日にはやや光明も見えたと思います。Bは、関わったOB、特にタクミさんの影響か⁸、非常に一体感のあるサッカーを繰り広げ、大量失点もありましたが、手に汗握るスリリングな戦いを展開しました。Aと比べ力が劣るのでスリリングな戦い（安心して観られない戦い）は必然のようですが、そういう意味ではなく、選手の頑張りに、「勝ってほしい、勝ちたい、勝たせたい」という気持ちが高まる試合が多いということ。**毎年感じますが、やはり、夏はBのためにあるのです。**個人的には、宿舎とサッカー場との移動において月山登山時とは見違えるような高い意識で四日間やりきった**チョマヌキことシマヌキ**が、これまでやったことのないCDFに意外な適性を見せディフェンスラインを統率したことが、とても印象深かったです。また、**ドイツンとジュンヤの右サイドのコンビ**がなかなか面白い化学反応を見せたことも、印象深い。ともかく、Bの試合の方が、Aの数倍見応えがありました。2年時の苗場で2年で唯一Bチームに回された**ハマジ（63回卒）**がその年の秋にはリーグ戦に出場していた、なんて過去もあります。Bの選手の今後の発奮に期待したいと思います。さて、この苗場、怪我で離脱する選手が複数出たのは残念でしたが、涼しい環境の中、サッカーに取り組むことができました。宿舎となったホワイトパレスさん、また大会事務区局の方々、ありがとうございました。最後にナオヒロ先輩が現役諸君に述べた言葉を紹介します。「サッカーに取り組めることを当

⁷ 一人、大学生にまだなっていない63回卒のゴ〇が「気分転換」と称してプレーしてました……。

⁸ タクミさんはピッチ内でもピッチ外でも声をたくさん出して関わってくれました。ベンチでいろいろ指示を出していると、後ろで聞いていた1年マネのシブ〇が「うるせえ～、このハ〇」とつぶやいた程です。ちなみに、そのマネの弁解で言うには、ハ〇が自分の周りにたかってしつこかったらしいのですが、タクミさんが大声で指示を出した直後ただけに、タクミさんも自分が言われたと思ったそうです……。私ともう一人の1年マネのミホは大笑いしました。

たり前と思わないように。たとえば、一生懸命洗濯してくれるマネージャーさんとかに感謝の気持ちをもってサッカーしてほしい。」

翌10日は、昨年夏に引き続き、石巻へボランティアに出かけました（石巻といっても、今年はその先の牡鹿半島にですが）。今年も「NPO **法人国境なき奉仕団チーム山形**」内に結成された**東日本大震災災害復興支援団**にコーディネートしていただき、昨年もお世話になった**代表の遠藤さん（山寺の遠藤物産）と山東3年生の保護者でもある岡崎さん（タカミヤグループ）**に率いられ、復興支援活動に行きまして⁹。5グループに分かれ、牡蠣の養殖の道具（帆立貝を使った道具）の製作班に二グループ、あとは共用広場ともなっているコンビニの周りの草取り、物の運搬とジャガイモ掘り、仮設住宅の周りの草取りにそれぞれ一グループ配置され、活動に行きました。私は仮設住宅の班と行動を共にしたのですが、特に仮設住宅の「ばあちゃん方」に可愛がられ、アイスクリームを二つ頂いたり、飲み物を頂いたりしました。草取り（草刈）は、猛烈な暑さと日差しで正直かなりしんどかったのですが、集中して5人で取り組むと結構はかどり、次々と指定された場所の草取りを終えることができ、達成感を感じました。午前中にあらかた仕事を終わらせてしまったので午後はゆっくりさせてもらいましたが、午前中だけでぐったりくるくらい働いた自負があり、「飛ばしすぎたかな」とも思います。当初、部員には、「『**相手のために活動する**』と思うと、どうしても『**やってやっ**』**てる**』という思い上がった気持ちが芽生えるから、『**自分の人生修業のためにやる**』**という気持ちを持って自主的に・積極的に活動しよう**』と伝えてあったのですが、どの班も地元の方にかかなり感謝され、**結果的に相手のためにもなった**ということに、とても大きな達成感を得ることができました。帰りには、石巻でもっとも大きな被害のあった住宅地¹⁰の一角に新しく建てられたお地蔵様¹¹を訪ね、皆で黙祷を捧げ、帰路につきました。**自分自身、仮設住宅を訪ね、「大震災はまだ終わっていない」という思いを新たにしました。**これからも継続して、活動していきたいと思います。現地ボランティアの方々、そして、段取りから移動の労力・金銭的負担まで復興支援団の方々に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

この夏の多岐にわたる経験を、秋以降の活動につなげていきたいと思います。

⁹ バスは支援団で借りて岡崎さんが運転して下さり、ガソリン代も高速代も支援団もちの「至れり尽くせり」のボランティア活動となりました。

¹⁰ といっても、家が立ち並んでいたその地区は、家がすべて流され、まだ広大な草っぱらです。昨年同じ地区に建てられてある慰霊碑を訪ねた折には、遠藤さんが、「一面草だけど、去年ここに来た時には、塩の影響で草すら生えず、流された家の跡があるだけだったんだ。やっと草が生えてきて、少しさびしさが紛れた。」というようなお話をされていました。石巻では、沿岸に大きな工場群があったかななかったかで、その背後の住宅地の被害の大小が決まったとお話を、岡崎さんからお聞きしました。

¹¹ 山形市七日町の長源寺のお坊さんらが中心になって建てたとお聞きしました。これから50体ほど建てていく計画の、まず一体目のようです。